

# 流通BMS導入支援ガイドブック

2017年度版

# 目次

## 1. 公衆回線網からIP網への移行

- ①今使っているEDIが利用できなくなる
- ②システムリースと移行タイミング

## 2. 流通BMSとは

- ①インターネットを利用した標準EDI
- ②流通BMS導入のメリット
- ③流通BMSの導入形態
  - I. 自社導入型
  - II. サービス利用型
- ④導入コスト
- ⑤Web-EDIだけではだめ
- ⑥流通BMSの対象業務

## 3. 流通BMSの現状

- ①全体の普及状況
  - I. 小売
  - II. 卸・メーカー
- ②導入済み企業
  - I. 小売
  - II. 卸・メーカー

## 4. 小売導入事例

### ①A社(自社導入型)

- I. 会社概要
- II. 導入の背景
- III. システム構成導入前
- IV. システム構成導入後
- V. 導入ポイント
- VI. 導入メリット
- VII. 今後の取り組み

### ②B社(サービス利用型)

- I. 会社概要
- II. 導入の背景
- III. システム構成導入前
- IV. システム構成導入後
- V. 導入ポイント
- VI. 導入メリット
- VII. 今後の取り組み

## 5. 情報提供

### ①情報取得方法

- I. セミナー
- II. 講座
- III. メールニュース
- IV. ドキュメント
- V. ロゴマーク使用許諾製品

# 1. 公衆回線網からIP網への移行 ①今使っているEDIが利用できなくなる

公衆回線網(PSTNコアネットワーク)の廃止はNTT東西の交換機の寿命であることから、必ず切替えが必要。

切替えることで、今のEDIを使い続けることはできなくなる可能性は高い。

2010年

NTT東西が公衆回線網(PSTNコアネットワーク)を廃止しIP網へ移行すると発表

**2020年度後半(2021年1月)**  
**公衆回線の基幹通信網を**  
**IP網に切り替え開始**

2015年

大企業を中心にIP網への移行説明を本格的に開始

2024年1月

INSネット提供終了

2025年1月

IP化以降完了

今利用しているEDI(JCA手順、全銀手順、全銀TCP/IP手順)が  
利用できなくなる可能性が高い

※2017年11月時点の情報を基に作成

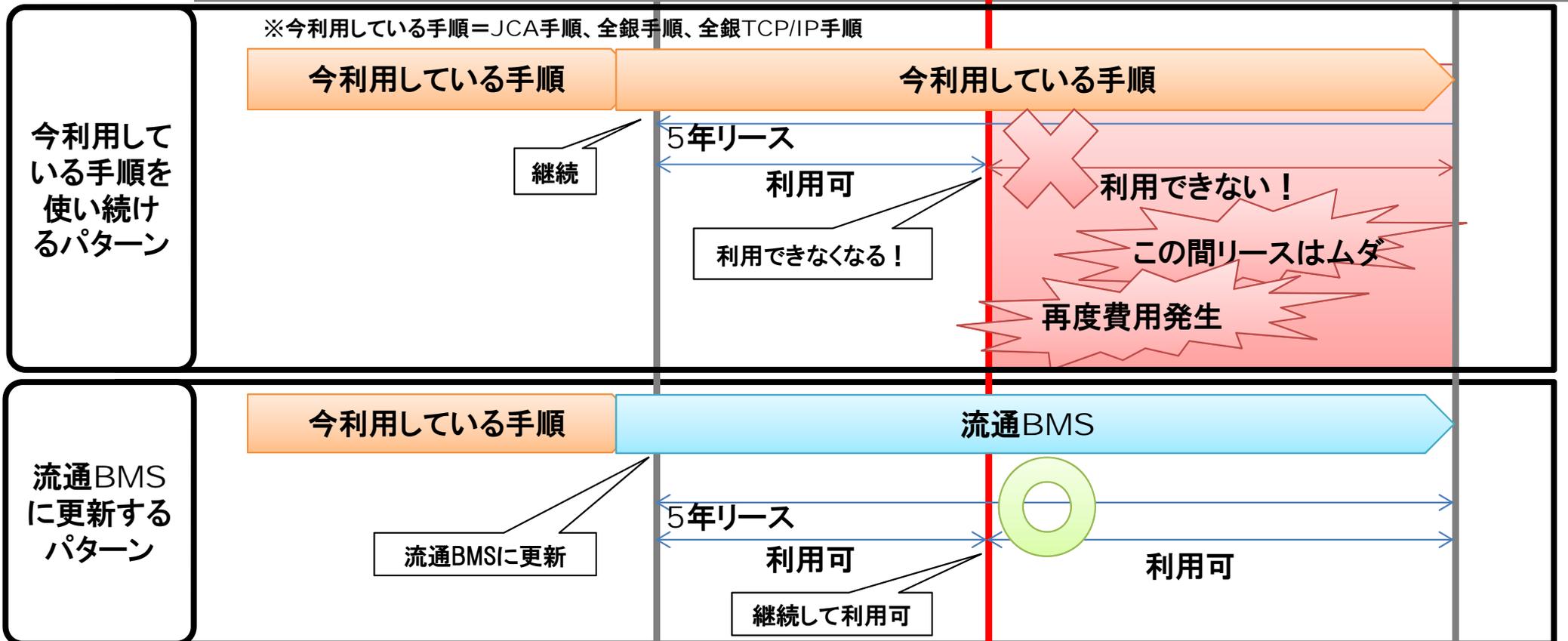
# 1. 公衆回線網からIP網への移行 ②システムリースと移行タイミング

システムリースは大体が5年契約。2015年以降にくる更新のタイミングで流通BMSに移行しておかないとムダな費用が発生してしまうことになる。

更新タイミング  
2018年

IP網へ切替え開始  
2020年度後半

更新タイミング  
2023年

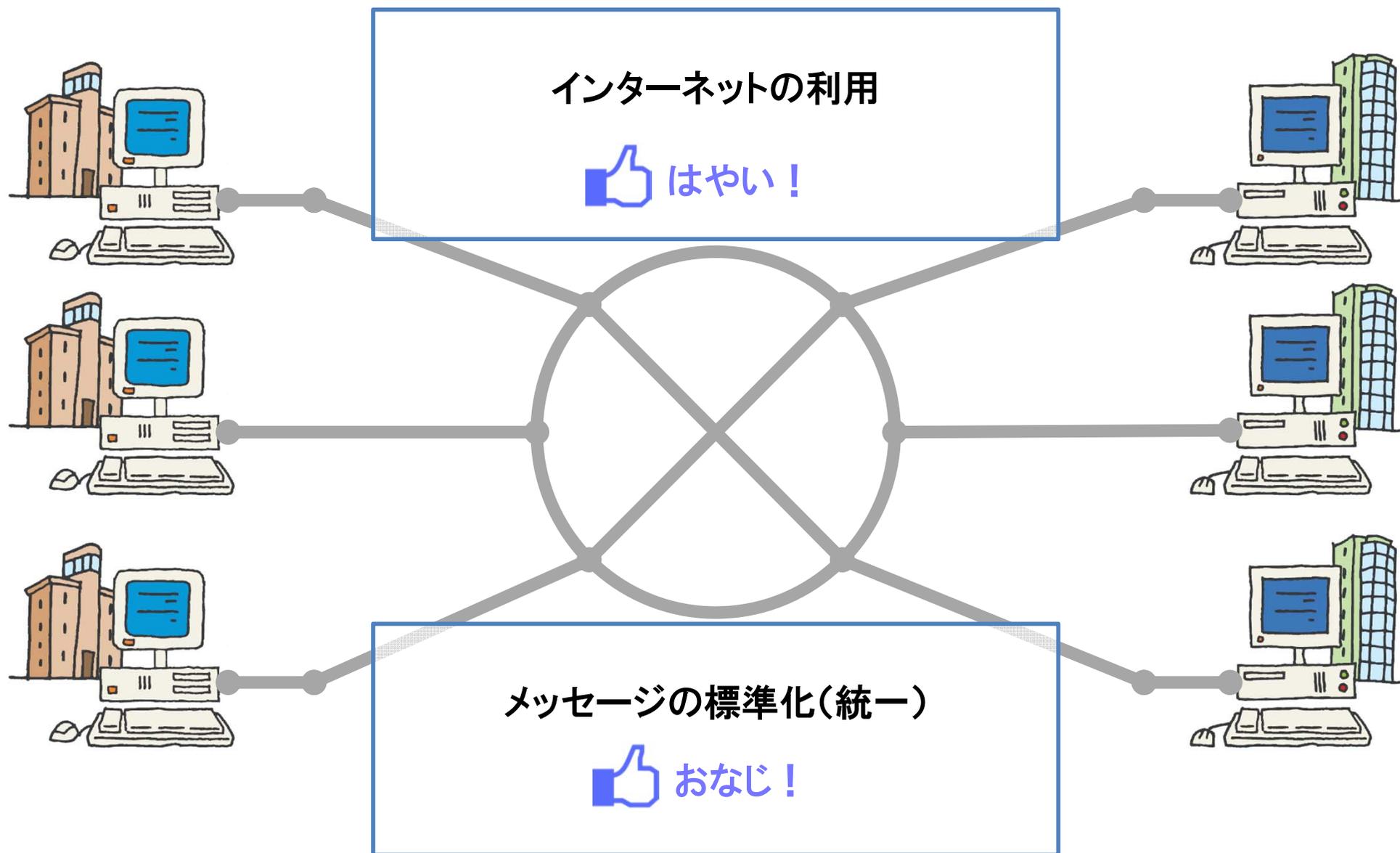


次回システム更新時には流通BMSへの対応が必要

※2017年11月時点の情報を基に作成

## 2. 流通BMSとは ①インターネットを利用した標準EDI

流通BMSはインターネットを利用し、メッセージを標準化した標準EDI。



## 2. 流通BMSとは ②流通BMS導入のメリット

### 流通BMSの導入効果

#### EDI導入効果

基幹システムとの連携・精度向上

経営の見える化

伝票レス

検品レス

#### 通信手順更新効果

速度向上・締め時間の余裕

通信コスト削減

事業継続計画(BCP)対策強化

#### 標準化効果

コストメリット

物流・金融との連携

社会的責任(CSR)対応

### 流通BMSの業務メリット

#### EDI取引

EDI取引先数増加

EDI取引額増加

#### 業務効率

発注業務時間の短縮

発注業務の精度向上

入荷検品業務負荷軽減

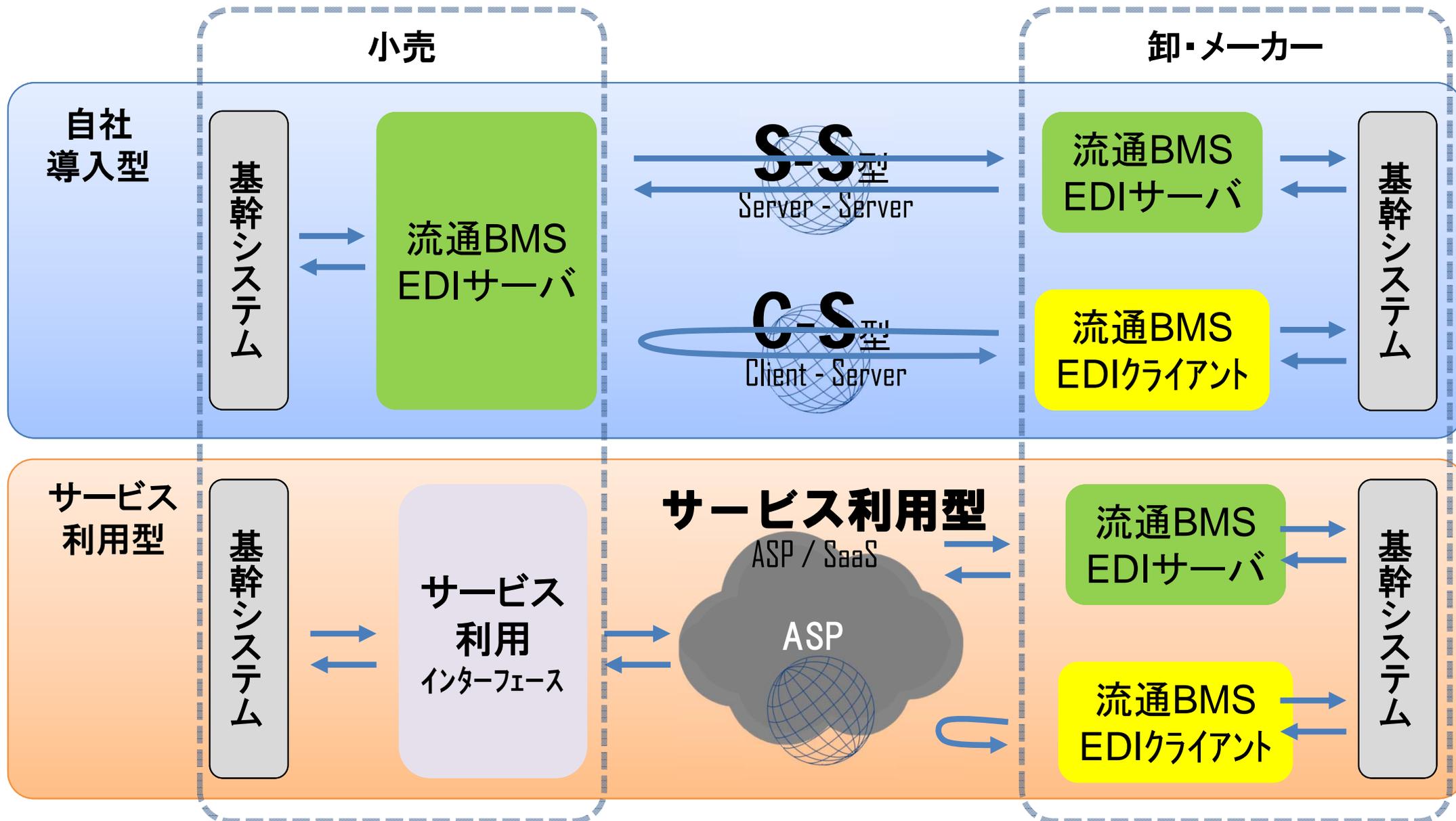
#### 粗利

粗利確定スピードアップ

粗利精度向上

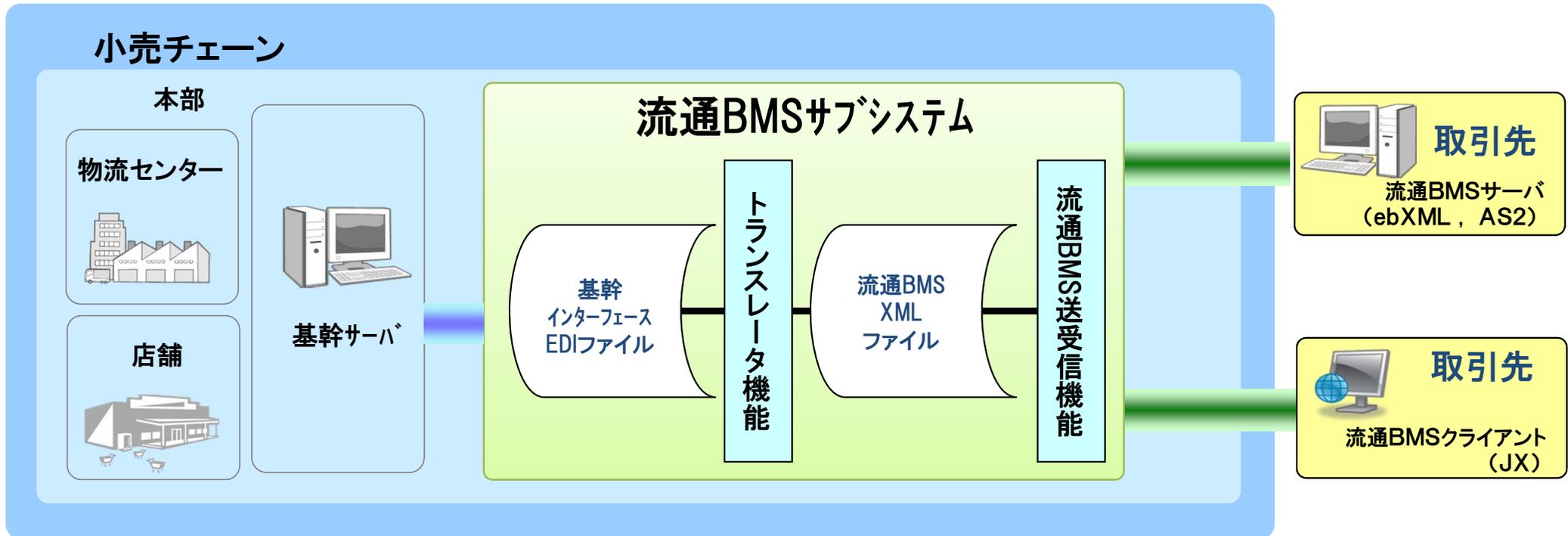
## 2. 流通BMSとは ③流通BMSの導入形態

流通BMSの導入形態は大きく「自社導入型」と「サービス利用型」の2つ。



## 2. 流通BMSとは ③流通BMSの導入形態 I. 自社導入型

小売システムに流通BMSの仕組みを導入し、即時性の高いデータ交換を実現する。  
また、自社システムとして稼働するため柔軟な対応ができる。



流通BMSの自社導入型の導入にあたっては、基幹システムを大幅に変更しなければいけないというイメージもあるが必ずしもそうではない。JCA手順/全銀手順等でEDI実施済みの小売では、流通BMSサブシステムとして機能追加すれば、基幹システムの大幅改造なしで流通BMSに対応できる。現状、EOSのみ実施の場合や電話・FAX発注が中心の場合においても、必要となるサブシステムを用意し対応することも有力な導入手法の一つ。

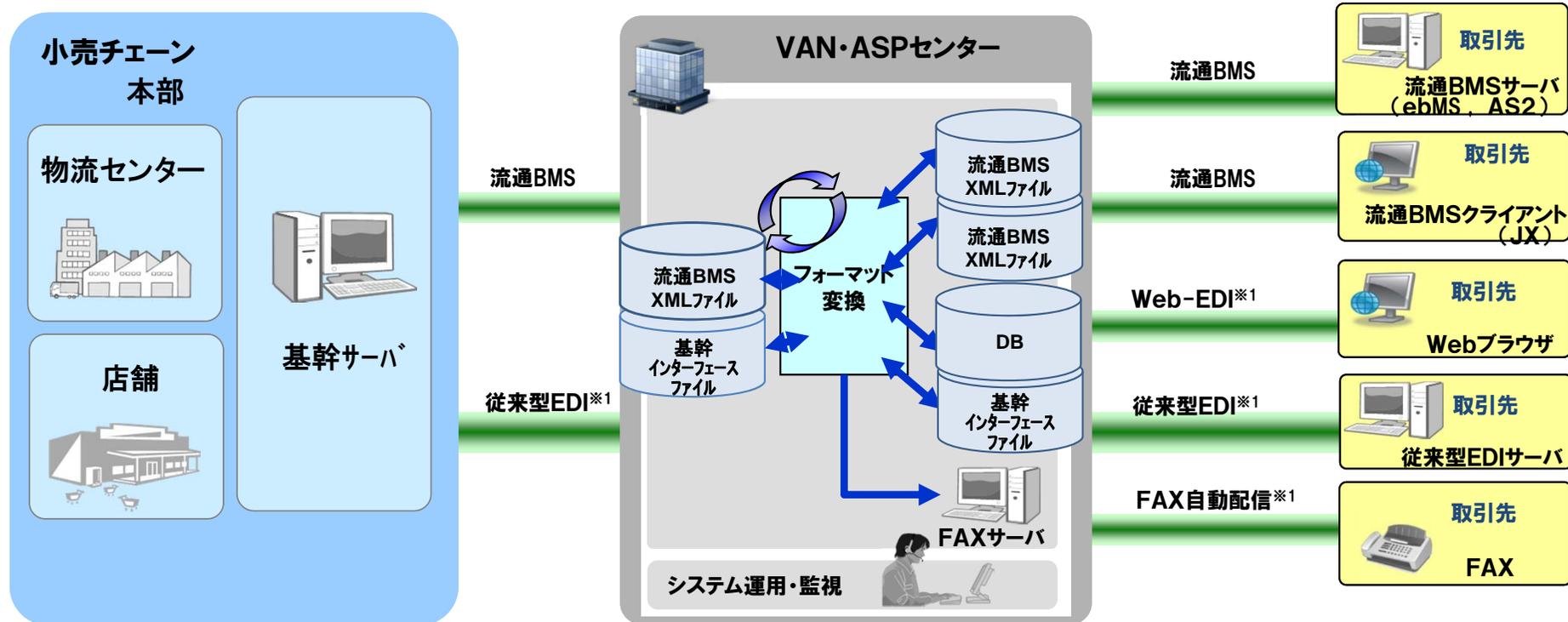
詳しくは「4. 導入事例: 自社導入型」を参照

### 主な機能内容

機能	項目
流通BMS送受信機能	流通BMSメッセージ送受信(発注、出荷、受領など)
	JX手順、ebXML(またはAS2)手順のサポート
	送受信ファイルのスキーマチェック ほか
トランスレータ機能	既存EDIのデータ項目補完(固定値、マスタ名称など)
	既存EDIと流通BMSの区分変換
	データ項目の型変換(文字列、数値、日付型など)
	Shift-JISへの文字コード変換
	JCA/全銀レイアウトと流通BMS-XMLレイアウトの双方向マッピング ほか

## 2. 流通BMSとは ③流通BMSの導入形態 II. サービス利用型

取引先との接続をサービス事業者へ委託し、中継を行うことで流通BMSを実現する。初期導入コストが安く、システム要員の負荷を軽減できる。



※1 各サービス事業者は、補完サービスとして流通BMS以外の接続サービスも提供しているが、条件などは各サービス事業者によって異なる

小売システムはサービス事業者のみと接続し、サービス事業者が取引先との接続を中継する。

### 【主なサービス内容】

- ・フォーマット変換
- ・プロトコル変換
- ・媒体変換
- ・PUSH送信

- ・運用サービス(システム監視・問い合わせ対応)
- ・取引先の新規接続テスト対応
- ・取引先説明会支援
- ・PUSH送信到達確認

## 2. 流通BMSとは ④導入コスト

一般的な小売の流通BMS導入コストを以下に示す。

### ◆自社導入型

概算費用例	初期費用	年間保守費用
		約1千万円

### ◆サービス利用型

概算費用例	初期費用	月額利用料金
		100万円~約200万円

※想定される小売の規模は以下を参照

売上規模 50億円~100億円

店舗数 5店舗~10店舗

取引先 100社程度

利用メッセージ:発注、出荷、受領、請求、支払(5メッセージ)

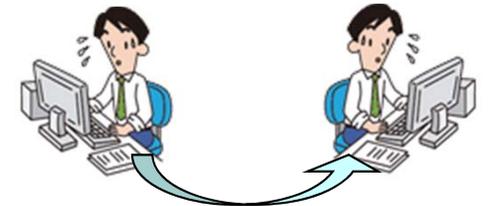
## 2. 流通BMSとは ⑤Web-EDIだけではだめ

### Web-EDIは小口零細取引先向けの方法。

卸・メーカーにおける流通BMSとWeb-EDIの比較

	流通BMS	Web-EDI
初期投資	 (流通BMS用ソフトが必要だが機能としてはある程度揃っている)	 (一部製品を除き、専用ソフトは不要だが付加する機能により値段に幅がある)
データ仕様	 (標準仕様のため取引先の負荷は軽減される)	 (小売個別仕様のため取引先に負荷がかかる一部取引先は断ってくる可能性もある)
データの自動連携	 (EDIとして自動連携を前提とした設計)	 (できない場合が多く、実現のために機能を追加する必要などがある)

Web-EDIはデータ連携が出来ず入力業務が発生したり、各社毎に対応が必要になってしまう。



特別なハードウェアやソフトウェアを必要としない場合もあり、初期投資を抑えることができるが、小売ごとに画面や操作手順が異なったり、自社システムとのデータ連携ができない場合が多くムダなコストと人時を要することがある。

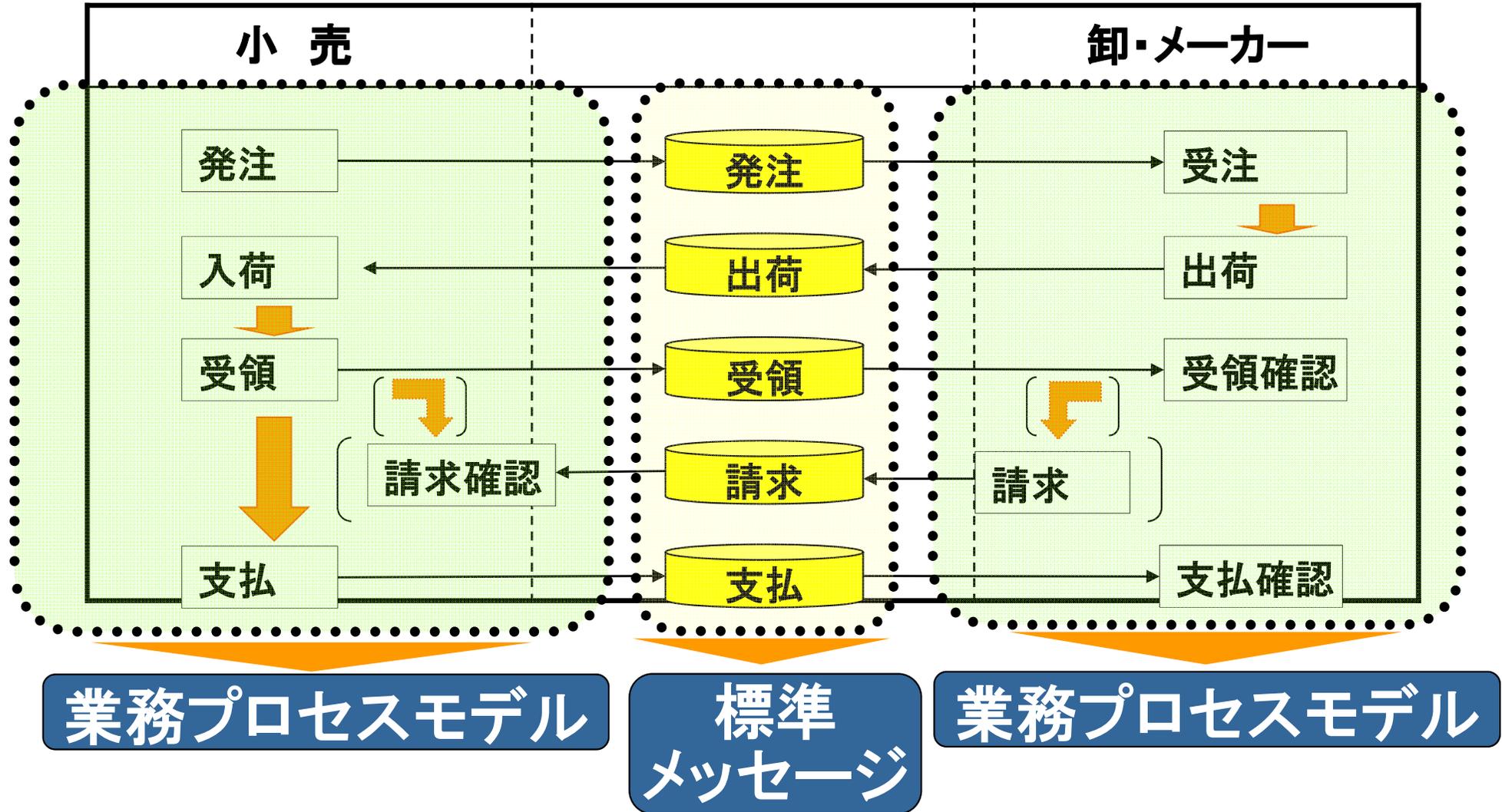
**定常的に取引する企業はEDIに流通BMSを望んでいる。  
EDIとして流通BMSの選択肢も提供する必要がある。**

## 2. 流通BMSとは ⑥流通BMSの対象業務

流通BMSには業務に必要なメッセージが揃っている。

メッセージは  
基本形26メッセージ  
百貨店版27メッセージ  
を揃える

基本的なプロセスとメッセージ



### 3. 流通BMSの現状 ①全体の普及状況 I. 小売

グロサリー卸で組織された情報志向型卸売業研究委員会(略称:卸研)にて調査した  
小売の業態別企業規模別普及状況

- ・小規模小売にも広く普及
- ・GMS、SMが全体の75%を占める

	GMS	SM	HC/DS	DgS	その他	合計
1000億以上	6社	48社	7社	14社	4社	80社
500億以上		21社		4社	1社	26社
200億以上		37社	3社	4社	2社	46社
200億未満		129社	6社	14社	18社	167社
合計	6社	235社	16社	36社	25社	319社

(2014年度情報志向型卸売業研究委員会資料より)

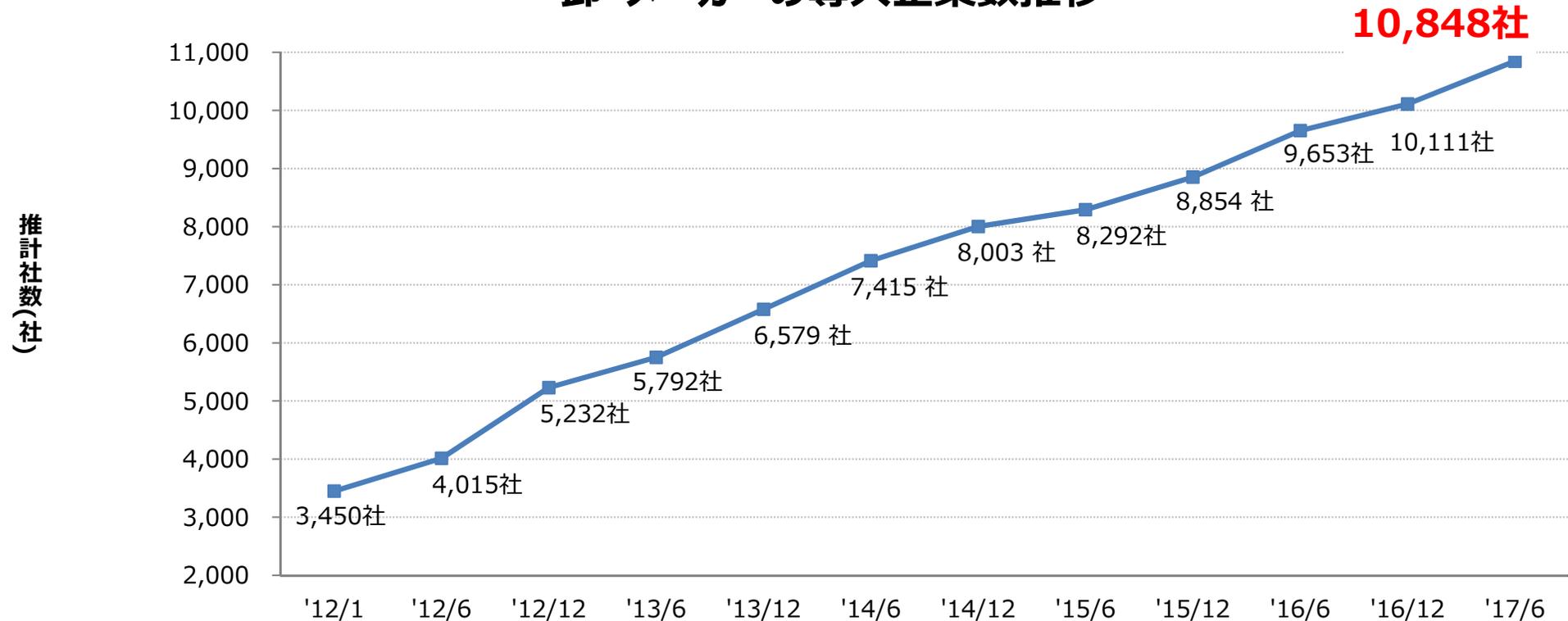
※ GMS=総合スーパー(general merchandise store)  
SM=スーパーマーケット(supermarket)、HC=ホームセンター(homecenter)  
DS=ディスカウントストア(discount store)、DgS=ドラッグストア(drug store)

### 3. 流通BMSの現状 ①全体の普及状況 II. 卸・メーカー

#### 卸・メーカーの普及状況

- ・16年6月で9,600社を超える
- ・1年間で約1,200社増加

卸・メーカーの導入企業数推移



(2017年6月1日時点)

### 3. 流通BMSの現状 ②導入済み企業

#### 導入済み企業 社名公開企業数

2017年11月1日現在

業態	導入済	導入予定	小計
1. スーパー	132	14	146
2. 百貨店	9	2	11
3. ドラッグストア	24	1	25
4. ホームセンター	4	0	4
5. 生協事業連合	4	0	4
6. 倉庫型会員制ストア	1	0	1
7. ボランタリーチェーン本部	1	0	1
8. ディスカウントストア	4	0	4
合計	<b>179</b>	<b>17</b>	<b>196</b>

業種	導入済	導入予定	小計
1. 食品・飲料卸	57	0	57
2. 菓子卸	21	4	25
3. 日用品・化粧品 卸・メーカー	27	0	27
4. 医薬品 卸・メーカー	6	2	8
5. アパレル・靴・スポーツ用品 卸・メーカー	29	8	37
6. 食品メーカー	31	2	33
7. 家庭用品 卸・メーカー	10	1	11
8. 包装資材・副資材 卸・メーカー	15	7	22
9. 玩具・ホビー 卸・メーカー	3	0	3
10.家電 卸・メーカー	2	0	2
11.その他 卸・メーカー	2	0	2
合計	<b>203</b>	<b>24</b>	<b>227</b>

# 3. 流通BMSの現状 ②導入済み企業 I. 小売

## 導入済み企業 社名公開小売

スーパー146社  
2017年11月1日現在

本社所在地	企業名	導入状況	本社所在地	企業名	導入状況	本社所在地	企業名	導入状況	本社所在地	企業名	導入状況
北海道	(株)アークス	予定	東京都	(株)エネルギースーパーたじま	済	長野県	(株)マツヤ	済	広島県	(株)イズミ	済
	イオン北海道(株)	済		(株)Olympicグループ	予定	岐阜県	(株)パロー	済		(株)Aコープ西日本	済
	マックスバリュ北海道(株)	済		サミット(株)	済		(株)ファミリーストアさとう	済		(株)三和ストアー	済
岩手県	イオンスーパーセンター(株)	済		(株)サンベルクス	済	静岡県	(株)ヒバリヤ	済		(株)ニチエー	済
	(株)スーパーマーケットマルイチ	済		(株)信濃屋食品	済	愛知県	えぶろんフーズ(株)	済		(株)ハロース	済
宮城県	(株)ウジエスーパー	済		(株)島田屋	済		(株)カネスエ	済		(株)藤三	済
	マックスバリュ南東北(株)	済		(株)スーパーアルプス	済		(株)キショッピングセンター	済		(株)フレスタ	済
秋田県	マックスバリュ東北(株)	済		(同)西友	済		(株)清水屋	済		マックスバリュ西日本(株)	済
	よねや商事(株)	済		(株)ダイエー	済		マックスバリュ中部(株)	済		山口県	(株)中央フード
山形県	(株)たかき	済		(株)東急ストア	済		(株)ヤマナカ	済			(株)丸久
	(株)ヤマザワ	予定		(株)トップ	済		ユニー(株)	済	徳島県		(株)オオキタ
福島県	(株)鎌倉屋	済		(株)ニューヤヒロ	済		(株)義津屋	済		香川県	(株)マルナカ
	わしお(株)	済		(株)花正	予定		三重県	(株)一号館	済	愛媛県	(株)大見屋
茨城県	(株)カスミ	予定		(株)保土田	済			(株)ぎゅーとら	済		(株)セブンスター
	(株)かわねや	済		(株)マルエツ	済	滋賀県	(株)フタバヤ	済	(株)波止浜スーパー	済	
	(株)サンユーストアー	済		(株)マルマンストア	済		(株)平和堂	済	(株)フジ	済	
	(株)スーパーマルモ	済		(株)三浦屋	予定	京都府	(株)なかむら	済	高知県	(株)くりはら	済
	(株)セイミヤ	済		(株)三越伊勢丹フードサービス	済		大阪府	イズミヤ(株)		済	(株)サンブラザ
	(株)結城ショッピングセンター	済		(株)ヤマイチ	済	(株)近商ストア		済		(株)末広	済
栃木県	(株)ダイユー	済	(株)ライフコーポレーション	済	(株)京阪ザ・ストア	予定		(株)土佐山田ショッピングセンター		済	
	(株)ヤオハン	済	神奈川県	(株)小田原百貨店	済	(株)光洋	済	福岡県	イオン九州(株)	済	
群馬県	(株)フレッセイ	済		(株)成城石井	済	(株)サンブラザ	済		(株)Aコープ九州	済	
	(株)ベイシア	済		(株)たまや	済	(株)ショッピングセンター池忠	済		(株)トライアルカンパニー	済	
埼玉県	(株)ベルク	済		(株)やまか	済	(株)スーパーサンエー	済		(株)西鉄ストア	済	
	(株)マミーマーケット	済		百合ヶ丘産業(株)	済	(株)マルシゲ	済	マックスバリュ九州(株)	済		
	(株)ヤオコー	済		(株)ロピア	済	(株)万代	予定	長崎県	(株)つばき屋	済	
	(株)ヤオシ	済	新潟県	(株)魚栄商店	済	兵庫県	(株)主婦の店 赤穂店		予定	(株)東美	済
	(株)与野フードセンター	済		(株)カワマツ	済		(株)三杉屋	予定	大分県	(株)サンライフ	済
千葉県	イオンリテール(株)	済		(株)ナルス	予定	奈良県	吉野ストア(株)	予定		鹿児島県	(株)大丸
	(株)おどや	済	(株)原信	予定	和歌山県		(株)オークワ	済	(株)タイヨー		済
	(株)尾張屋	済	石川県	(株)鍛冶商店		済	(株)サンキョー	済	(株)山形屋ストア		済
	(株)セレクトション	済		マックスバリュ北陸(株)		済	(株)松源	済	沖縄県	イオン琉球(株)	済
	(株)ナリタヤ	済		(株)マルエー	予定	島根県	(株)キヌヤ	済		(株)サンエー	済
	マックスバリュ関東(株)	済	福井県	(株)かじ惣	済		島根県農業協同組合ラビタ	済		(株)丸大	済
東京都	(株)イトーヨーカ堂	済		(協組)ハニー	済		(株)みしまや	済	(株)リウボウストア	済	
	(株)いなげや	済		(株)ユース	済	(株)ヤマダヤ	済	岡山県	(株)マルイ	済	
	(株)エコス	済	長野県	マックスバリュ長野(株)	済						

# 3. 流通BMSの現状 ②導入済み企業 II. 卸・メーカー

## 導入済み企業 社名公開卸売業（一部企業のみ抜粋して掲載）

2017年11月1日現在

### 1. 食品・飲料卸

本社所在地	企業名	導入状況
北海道	シュレン国分(株)	済
	(株)スハラ食品	済
	日本アクセス北海道(株)	済
	(株)北海道リョーシヨク	済
青森県	丸大堀内(株)	済
宮城県	東北国分(株)	済
山形県	(株)山形丸魚	済
福島県	(株)福島リョーシヨク	済
	ポーキ佐藤(株)	済
栃木県	関東国分(株)	済
埼玉県	(株)関東リョーシヨク	済
千葉県	ユアサ・フナシヨク(株)	済
東京都	国分(株)	済
	国分フードクワイエイト東京(株)	済
	東京国分(株)	済
	(株)ナックスナカムラ	済
	(株)日本アクセス	済
	日本酒類販売(株)	済
	廣屋国分(株)	済
	三井食品(株)	済
	三菱食品(株)	済
	神奈川県	神奈川国分(株)
新潟県	新潟国分(株)	済
	(株)新潟リョーシヨク	済
富山県	富山ヤクルト販売(株)	済
	北陸中央食品(株)	済
石川県	カナカン(株)	済
	(株)北陸リョーシヨク	済
福井県	北陸国分(株)	済

本社所在地	企業名	導入状況
長野県	(株)マルイチ産商	済
岐阜県	(株)岐阜リョーシヨク	済
静岡県	ヤマキ(株)	済
愛知県	(株)昭和	済
	(株)トーカン	済
三重県	東海国分(株)	済
大阪府	(株)飯田	済
	伊藤忠食品(株)	済
	ゴールドエッグ(株)	済
	三陽物産(株)	済
	ヤタニ酒販(株)	済
	兵庫県	加藤産業(株)
兵庫県	(株)ヒメカン	済
	兵庫国分(株)	済
島根県	山陰国分(株)	済
岡山県	東中国国分(株)	済
	藤徳物産(株)	済
広島県	サンリック国分(株)	済
山口県	西中国国分(株)	済
香川県	四国国分(株)	済
	(株)四国リョーシヨク	済
高知県	旭食品(株)	済
福岡県	コゲツ産業(株)	済
	ヤマエ久野(株)	済
長崎県	長崎国分(株)	済
大分県	大分国分(株)	済
	(株)大分リョーシヨク	済
鹿児島県	南九州国分(株)	済

### 2. 菓子卸

本社所在地	企業名	導入状況
北海道	(株)ナシオ	済
栃木県	(株)関口	予定
東京都	国分菓子(株)	済
	コンフェックス(株)	済
	(株)ハセガワ	済
	(株)美多加堂	済
新潟県	(株)清野屋	済
	田代コンフェックス(株)	済
岐阜県	(株)桑名屋	済
静岡県	(株)大黒屋	済
愛知県	(株)正直屋	済
	杉秀コンフェックス(株)	済
	(株)種清	済
京都府	(株)相互	済
大阪府	(株)エヌエス	済
	(株)山星屋	済
	横山(株)	予定
兵庫県	播磨物産(株)	予定
鳥取県	えびす本郷(株)	済
広島県	(株)外林	済
	ふたばコンフェックス(株)	済
福岡県	(株)イシカワ	済
熊本県	(株)木村	済
大分県	(株)大島屋	済
鹿児島県	セイカ食品(株)	予定

## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) I. 会社概要

### 会社概要

業態	食品スーパー
店舗数	5店舗
売上高	80億円(2009年度)
出店地域	愛知県
センター	物流センター無し(一部卸物流利用)
取引先数	100社強(卸帳合い含む、集約化後)
従業員	300名(パート、アルバイト含む)
情シ人数	専任者なし
流通BMS 開始時期	2010年3月

「地域の食生活を豊かにし、お買い物の快適さ、楽しさを追求する食品スーパー」

## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) II. 導入の背景

### 導入の背景

#### きっかけ

□ドミナント展開を脅かす価格競争の激化



#### 課題

- 個人に頼ったバイイングと品揃え・在庫の偏重
- 本部・店舗業務再整備の遅れによる効率の悪化
- 経営の意思決定、現場での判断に必要な数字の欠如



#### 解決策に向け、始めた活動

□経営改革プロジェクトの発足と、支援基盤としての情報システムの見直し

#### 流通BMSを採用の形態と理由

導入形態: 自社導入型

1. 流通BMSは今後の流通業界の標準になる
2. お取引先様にもシステム開発で余計な負担を掛けずに済む

#### 流通BMS導入の目的・狙い

##### 1) 発注業務の効率化

店舗での発注業務の見直し  
取引先様に迷惑がかかる発注ミスや誤  
発注を無くし、適正な数量による発注を  
目指す。

##### 2) 仕入検品業務の効率化

出荷データを返してもらうことで、店舗での  
検品作業の軽減、精度向上を図る。  
将来的に伝票レスに移行していくことで、双  
方の更なるコスト削減を目指す。

##### 3) 経理関連業務の効率化

経理関連の取引データを交換することで経理業務  
の精度向上・事務作業の効率化を図る。  
支払データの開始に伴い、取引先への負担となる請  
求書の発行などの請求業務を廃止し、請求レスに取  
組む。

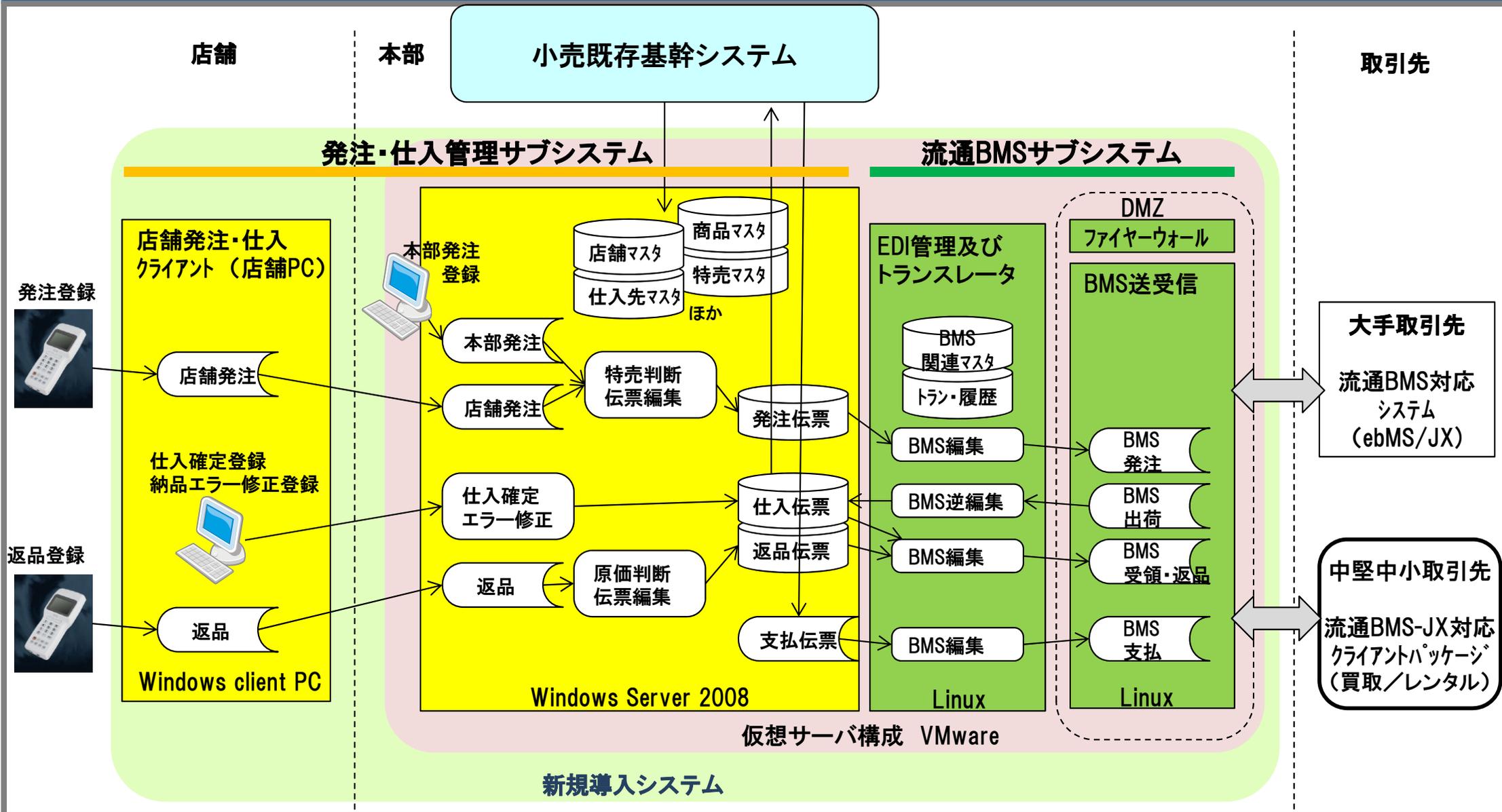
## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) Ⅲ. システム構成導入前

### 流通BMS導入前のシステム構成および業務フロー

- JCA手順による発注業務を行っていたがEOS化はわずか5社にとどまっていた。
- EOS化されていない取引先への発注では、システムから商品一覧を打ち出して、実際に棚を見て発注数を記入する方法をとっていた。
- 商品一覧と商品陳列の順番が違うため、その確認も負担であった。
- また商品ごとに卸が異なり、帳合先が入り混じっているため、それぞれの卸ごとに手書きで転記してFAX送信するという人手に頼った複雑な処理を行っていた。
- 本部送り込み商品では、電話発注が頻繁に行われていた。

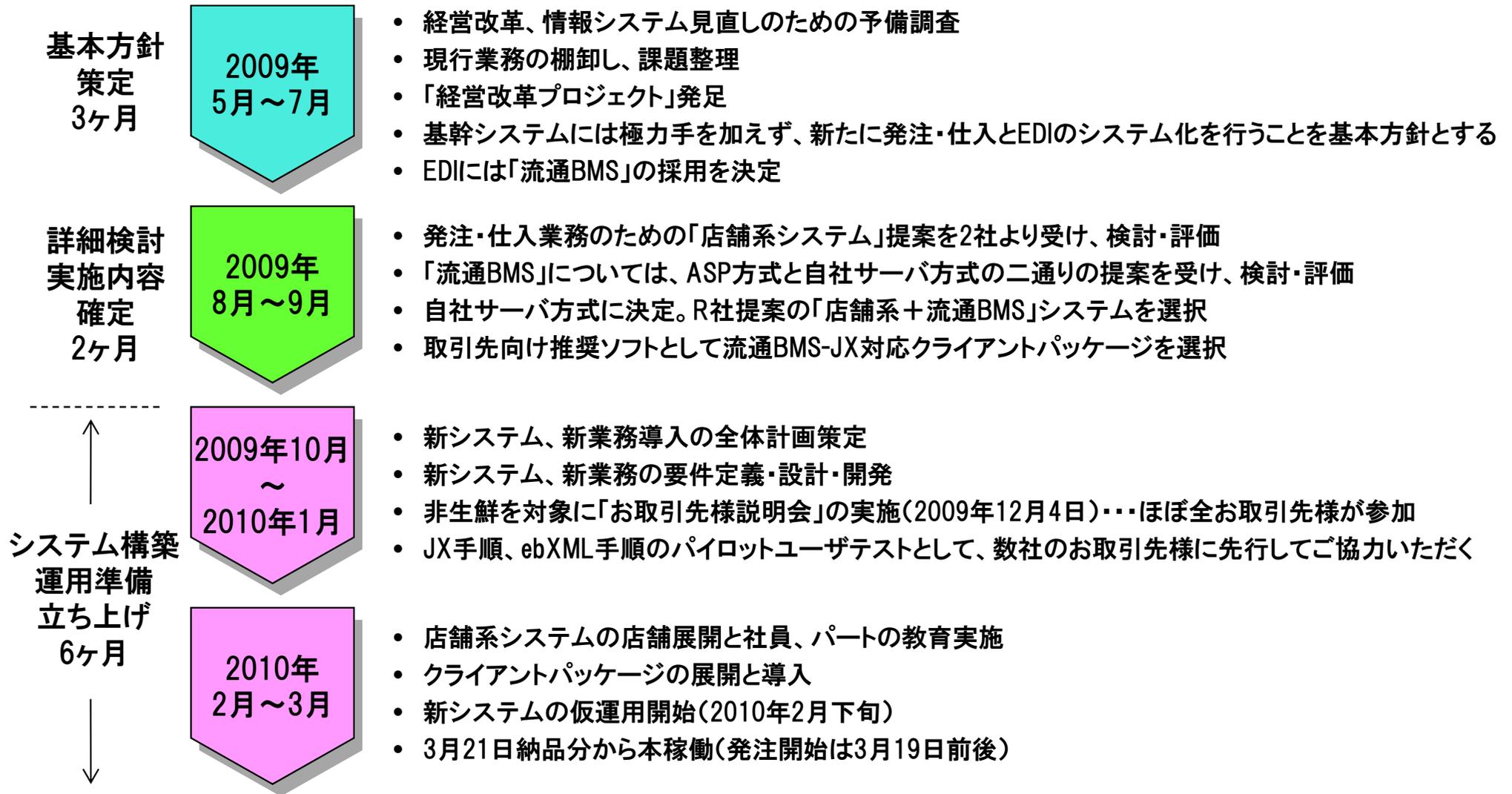
# 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) IV. システム構成導入後

## 流通BMS導入後のシステム構成および業務フロー



## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) V. 導入ポイント

### 流通BMS導入するにあたりポイントとなった点、特別な取り組み



## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) VI. 導入メリット

### 流通BMS導入したことによるメリット

主な比較項目	流通BMS稼働以前	流通BMS稼働後
①EDI取引先数(非生鮮)	6社(JCA手順:発注のみ)	40社(流通BMS:発注・出荷・受領・返品)
②EDI取引先数の割合(非生鮮)	14%	90%
③発注業務にかかる時間	ドライグロサリーのメイン卸だけで1時間以上	全部の発注で20分から30分程度
④発注業務の精度	システム化の遅れで欠品が多い	欠品の解消が進んでいる
④入荷検品業務負荷	仕入伝票入力に1名×5店舗=5名のパートを手当	伝票入力が無くなり他業務へシフト
⑤粗利確定のタイミングと精度	月単位で翌月10日後、その後も未処理伝票追加で修正	日単位で翌日

※ 流通BMSの採用を機に商品マスタの見直しと再設定を決定し、仕入・帳合先や発注単位、納品リードタイム他の整理を行えたことは、上記以外にも本部・店舗業務の効率化と精度向上に大きな効果を生んでいる。

## 4. 小売導入事例 ①A社(自社導入型) VII. 今後の取り組み

### 流通BMS稼働後の取り組みについて

- 流通BMSの対象範囲拡大
  - ✓ 請求レスと支払案内データ送信による経理業務の効率化
  - ✓ 生鮮への適用 …… 業務運用の検証
- 発注システムの機能拡張と自動発注の検討
- 新システムをベースにした商品部の体制強化とスキルアップ
- その他

## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) I. 会社概要

### 会社概要

業態	食品スーパー	<p>「飛騨地方の独自商品を生かしネットスーパーにも力を入れているスーパー」</p>
店舗数	5店舗(2013年9月末 現在)	
売上高	60億円(2013年9月実績)	
出店地域	岐阜県	
センター	物流センター無し	
取引先数	120社	
従業員	176人(パート・アルバイト8時間換算)	
情シ人数	なし	
流通BMS 開始時期	2014年 2月	

※出典:2014年度 流通4団体合同「流通BMS活用推進説明会」(2014年9月5日)講演資料より抜粋」

## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) II. 導入の背景

### 導入の背景

#### きっかけ

- 5店舗目の出店で伝票が1万枚/月を超え、事務処理が間に合わなくなった  
→ システムによる効率化が急務



#### 課題

- システム化の一般的な導入プロセスを踏襲するとお取引先様がついて来れない・・・  
→ ご当地スーパーとしての品揃え、商習慣、お取引先様は変えたくない。



#### 解決策に向け始めた活動

- 2年前の流通4団体合同の「流通BMS普及推進説明会」に参加 → 流通BMSの採用を検討

#### 流通BMSを採用の形態と理由

##### 導入形態: サービス利用型(ASP/SaaS)

1. 流通4団体も推奨しており、今後の標準仕様となる大きな流れがあること
2. ただ型にはめようとするを前提にせず、中小スーパーの流通BMS普及に、スタッフの皆さんが熱心にチャレンジしていただける姿勢を感じた

#### 流通BMS導入の目的・狙い

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>1) 業務のEDI化を進めたいから<br/>発注だけでなく、受領や支払などもEDI化するためには、標準仕様を採用する必要があった。</p> | <p>2) 発注方式を統一したいから<br/>標準仕様のEDIを採用することで、卸独自HTの発注を無くし、自社のHTからの発注に統一する。</p> | <p>3) 紙(伝票)の運用を削減したいから<br/>EDIと組み合わせて、ルートセールス向けのシステムを採用することで、紙(伝票)の運用を削減したい。</p> |
|--|---|--|

# 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) II. 導入の背景

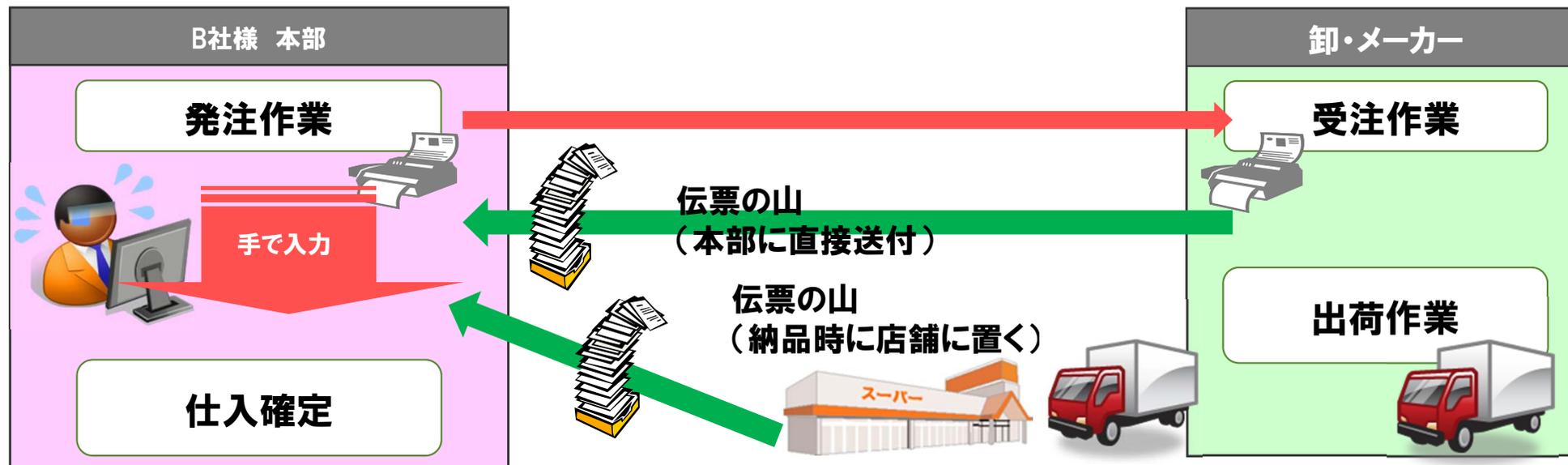
## 導入の背景

手書伝票の処理を2人の事務員で行っていたが  
5店舗目の出店で・・・！

事務作業がパンク



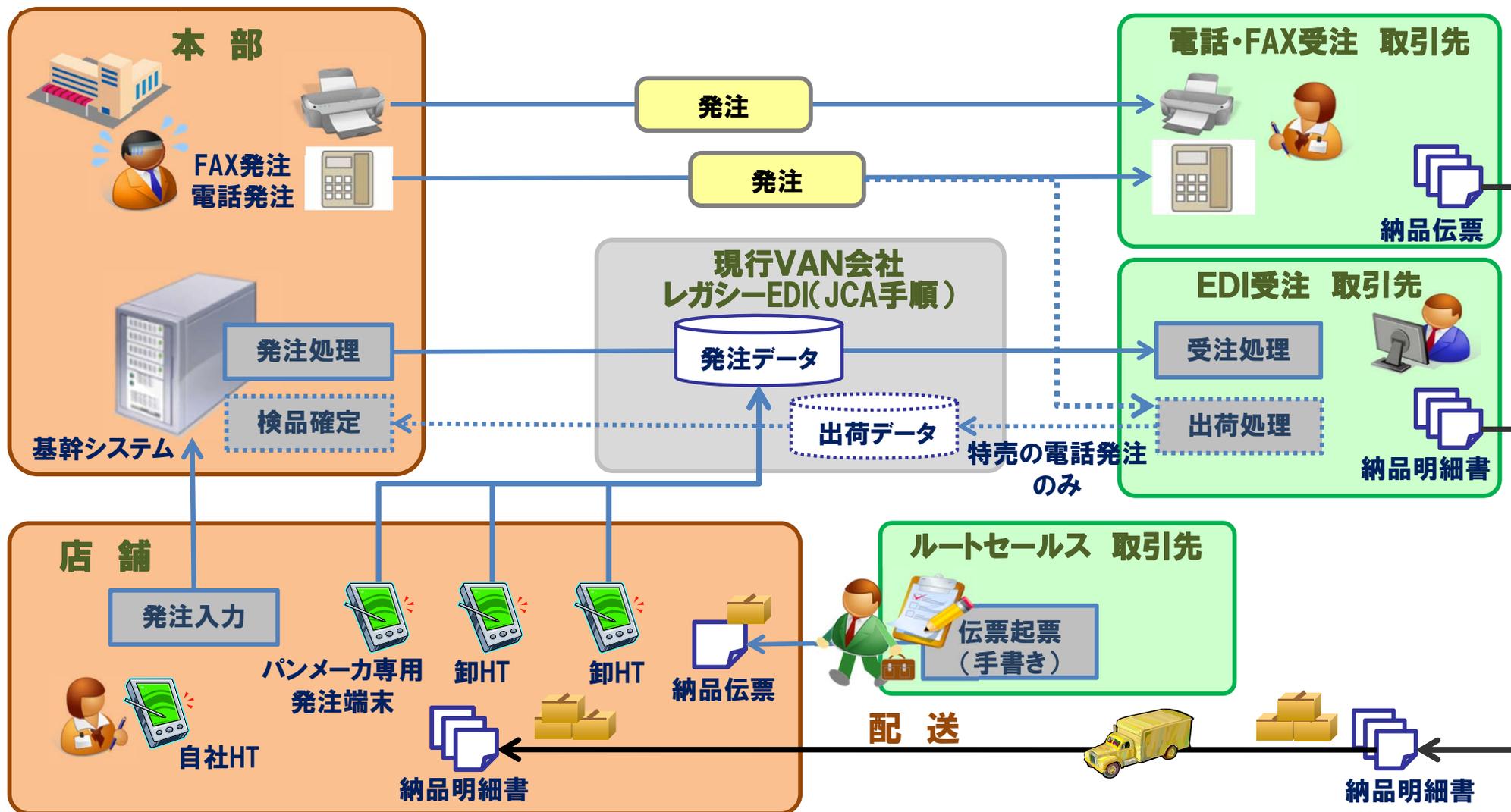
毎日大量の紙が本部に届けられ・・・  
毎日大量の入力作業・・・  
月末の確認作業が・・・  
支払にも遅れが・・・ **加えてミスも多発・・・**



# 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) III. システム構成導入前

## 流通BMS導入前のシステム構成および業務フロー

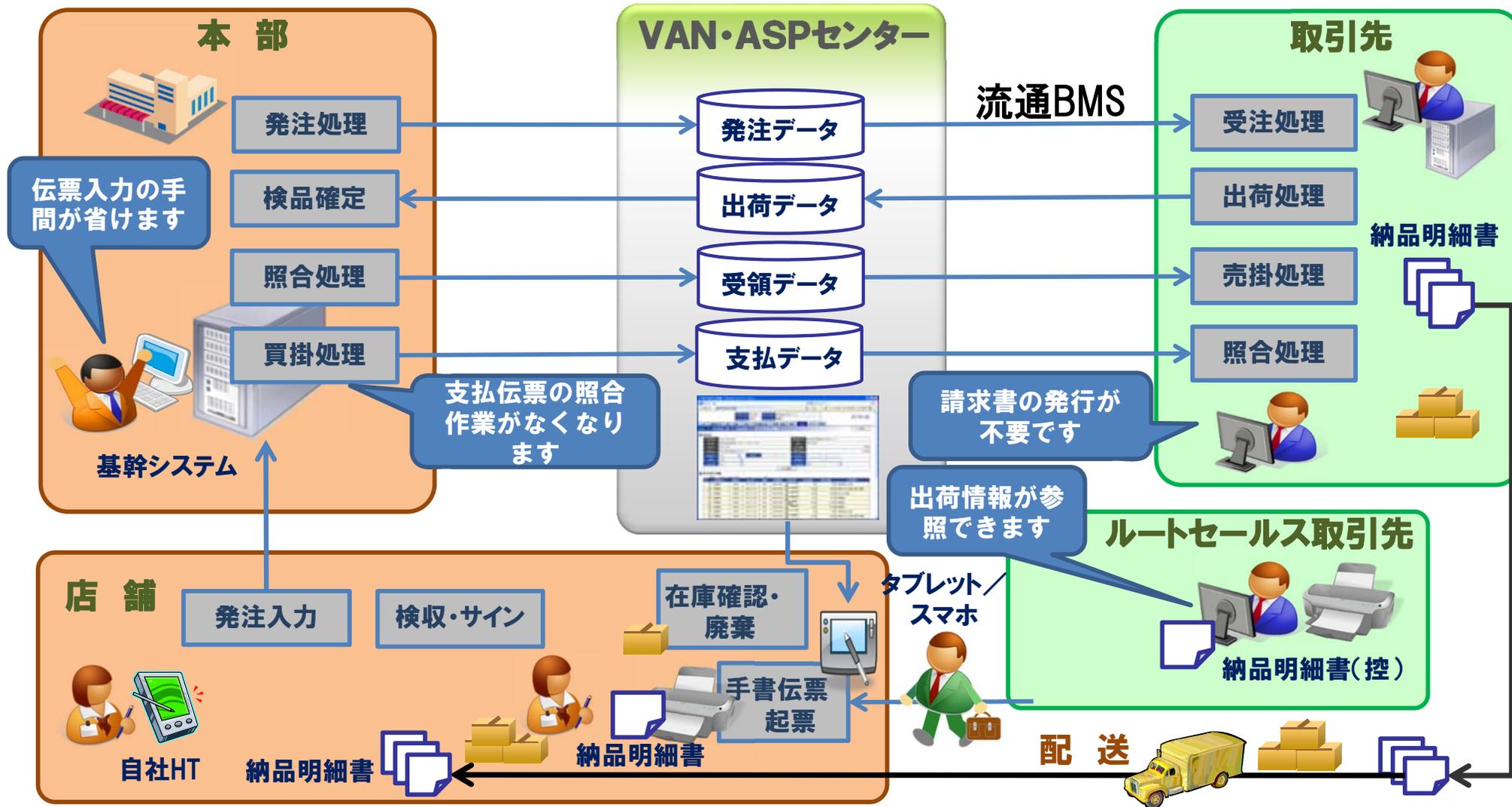
### 【現行業務】



# 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) IV. システム構成導入後

## 流通BMS導入後のシステム構成および業務フロー

### 【業務改革後】 ◆ 将来構想を含む



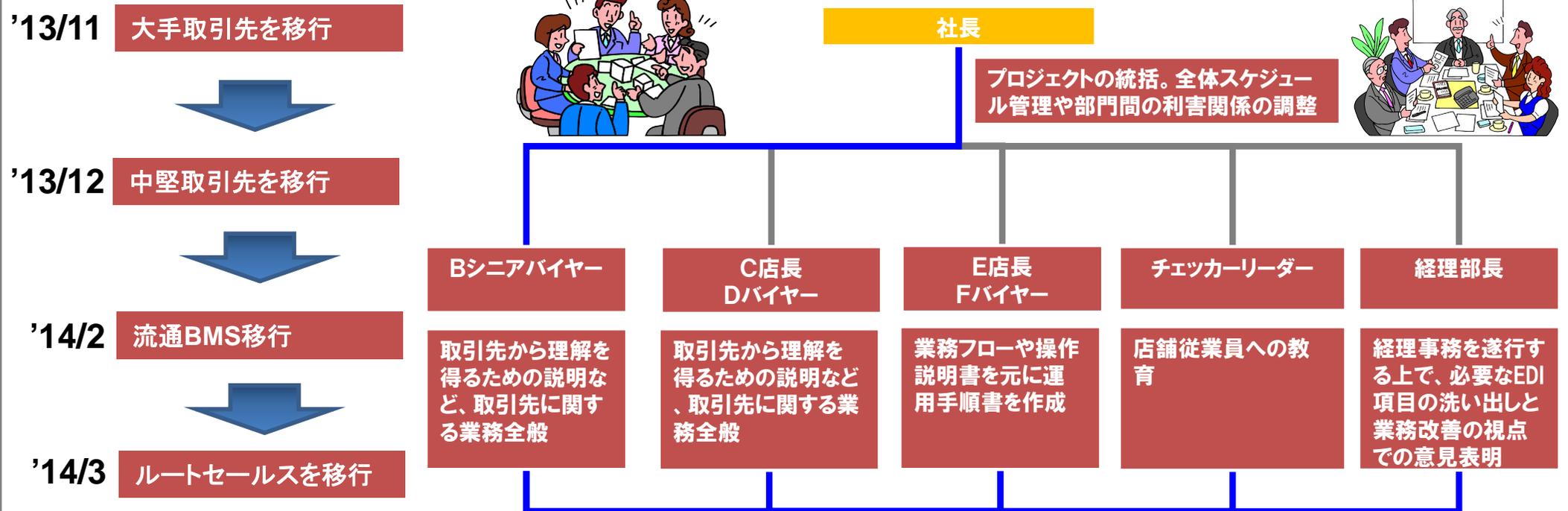
## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) V. 導入ポイント

### 流通BMS導入するにあたりポイントとなった点、特別な取り組み

- ・ 社長を最高責任者として全社的に取り組む
- ・ 組織上にシステム担当者がいないため、必要な業務毎に担当者を選任
- ・ 基幹システムのパッケージソフトベンダーに協力を依頼
- ・ 問屋さんをEDI種別毎にグループ分けし、段階的に移行

### 導入期間

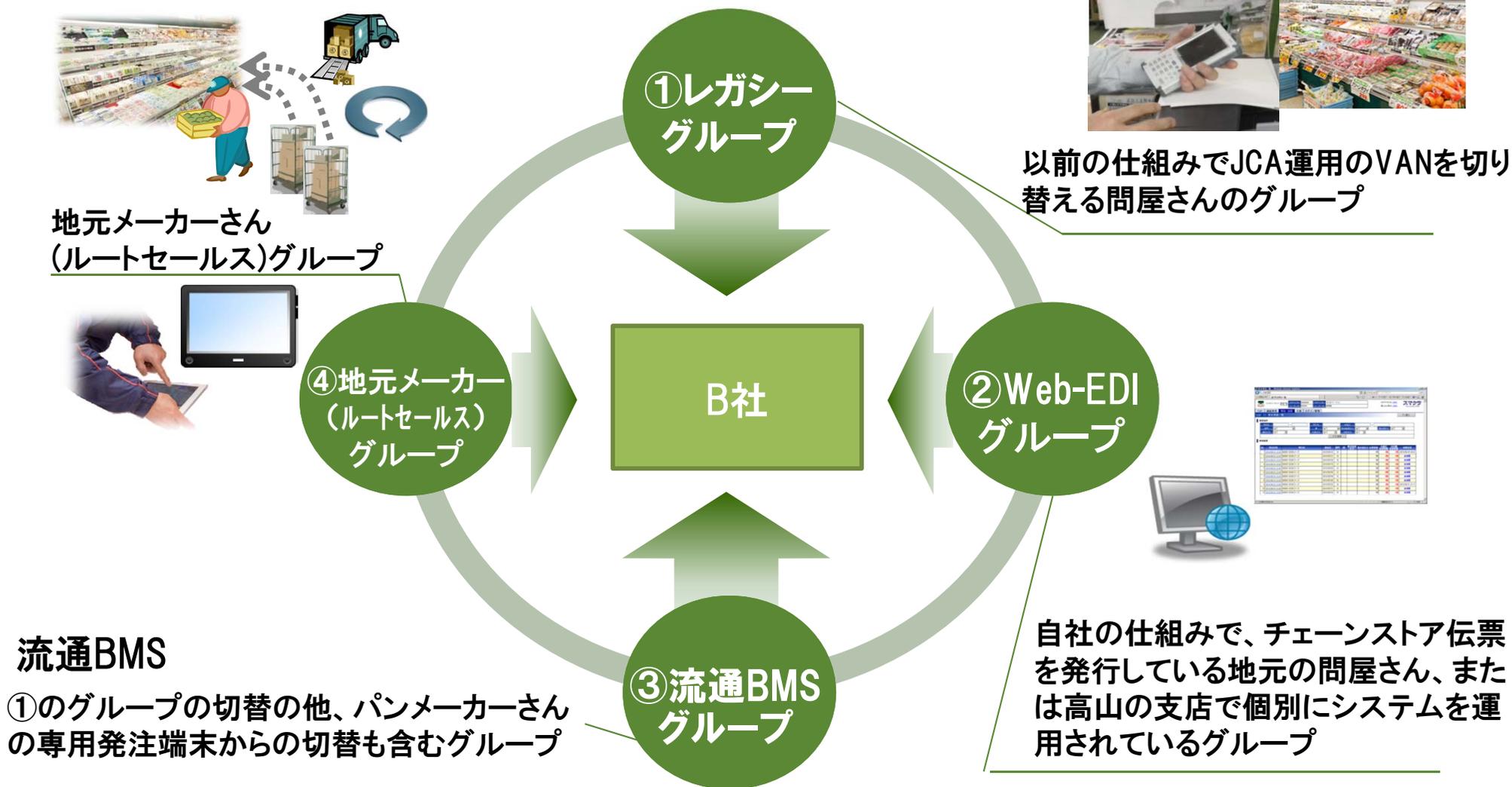
### プロジェクト発足・社内体制



## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) V. 導入ポイント

流通BMS導入するにあたりポイントとなった点、特別な取り組み

### 問屋さんの4つのEDI種別について



## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) V. 導入ポイント

流通BMS導入するにあたりポイントとなった点、特別な取り組み

### サポートスタッフによる問屋さん向け データ活用勉強会を開催



簡易操作マニュアル  
※ルートセールス取引先様向け

CSVデータ活用術  
※ルートセールス取引先様向け

9-1. 納品日順に並び替える

【順市ネット(orWeb)のCSVファイルは新しく作成された位置順にデータが出力されます。納品日の古い方から順にしてデータを扱いたい場合はデータを並び替える必要があります。】

- ① [全選択ボタン] (またはCtrl+A) を押し、セルを全選択します。
- ② [データ]メニューの[並び替え] をクリックします。
- ③ 設定ウィンドウが表示されるので、並び替えられるキーに [納品日] 順序 [昇順] を選択します。
- ④ [OK] をクリックすると納品日の古い順に並び替えられます。
- ⑤ 同様の方法で (他原番号] [店舗コード] [部門コード] などで並び替えも可能です。

3. CSVデータを上手に利用するには

CSVデータをエクセルで開くと...

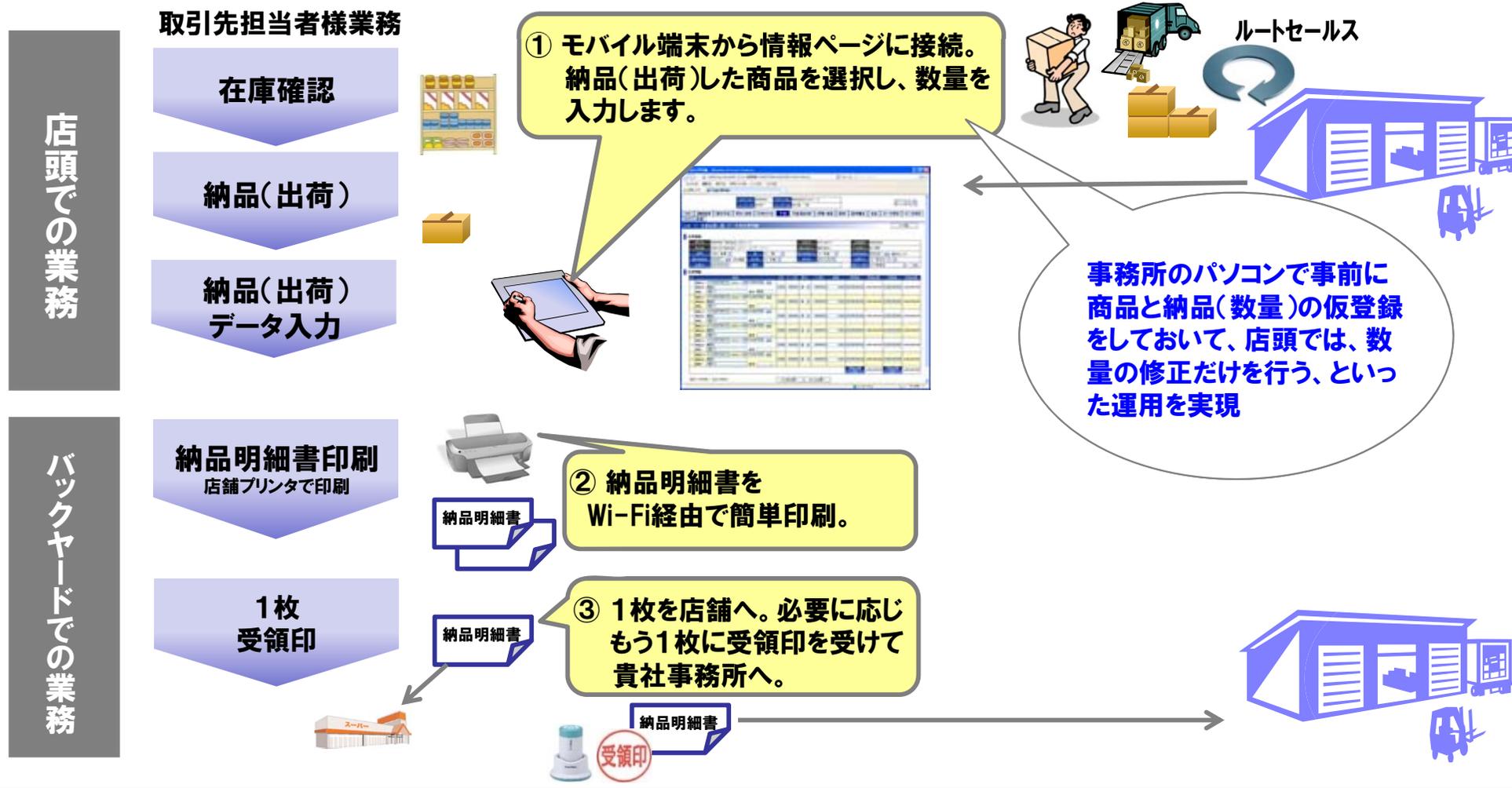
このように、項目名と項目の値が同じ位置に表示されますので、あとは通常のエクセルと同じ使用方法でご利用ください。

流通BMSでデータ化し、問屋でも活用することで「経理の伝票入力業務」の大幅削減、「照合作業負荷・請求作業負荷」の大幅改善、「営業マンへの問合せや確認作業依頼」の削減が実現した。

# 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) VI. 導入メリット

## 流通BMS導入したことによるメリット

### 店舗のメリット 流通BMSでEDI化することで実現した 店頭・バックヤードの新業務フロー



## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) VI. 導入メリット

### 流通BMS導入したことによるメリット



### 導入効果① 個別オペレーションの排除 (HTの統一)

#### 発注端末専用棚



<店舗発注用HT(一機種に統一)>  
問屋さん専用端末及び  
パンメーカー専用端末を廃止  
→ 自社HTに統一

#### <ルート取引先様用 iPadシステム>

- iPadは、問屋さんで準備  
(汎用品利用でコスト低減)
- ※それでも負担が大きいという問屋さんには貸出用も準備



- 保管場所は、防犯対策として  
店内の元発注端末専用棚横に配置

#### • 納品伝票印刷用プリンター(AirPrint対応)



- 利便性を考慮して  
バックヤードの  
出入口に設置

※ AirPrint とは、ドライバをインストールしたりソフトウェアをダウンロードしたりしなくて済む設定不要の無線印刷です。

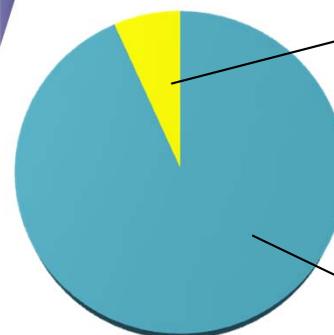
## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) VI. 導入メリット

### 流通BMS導入したことによるメリット

#### 導入効果② 伝票入力業務削減 (伝票の山の廃止)



**9割削減!**  
**締め処理短縮!**  
**必要とされる部署へ  
人員のシフト!**



伝票残  
6.7%

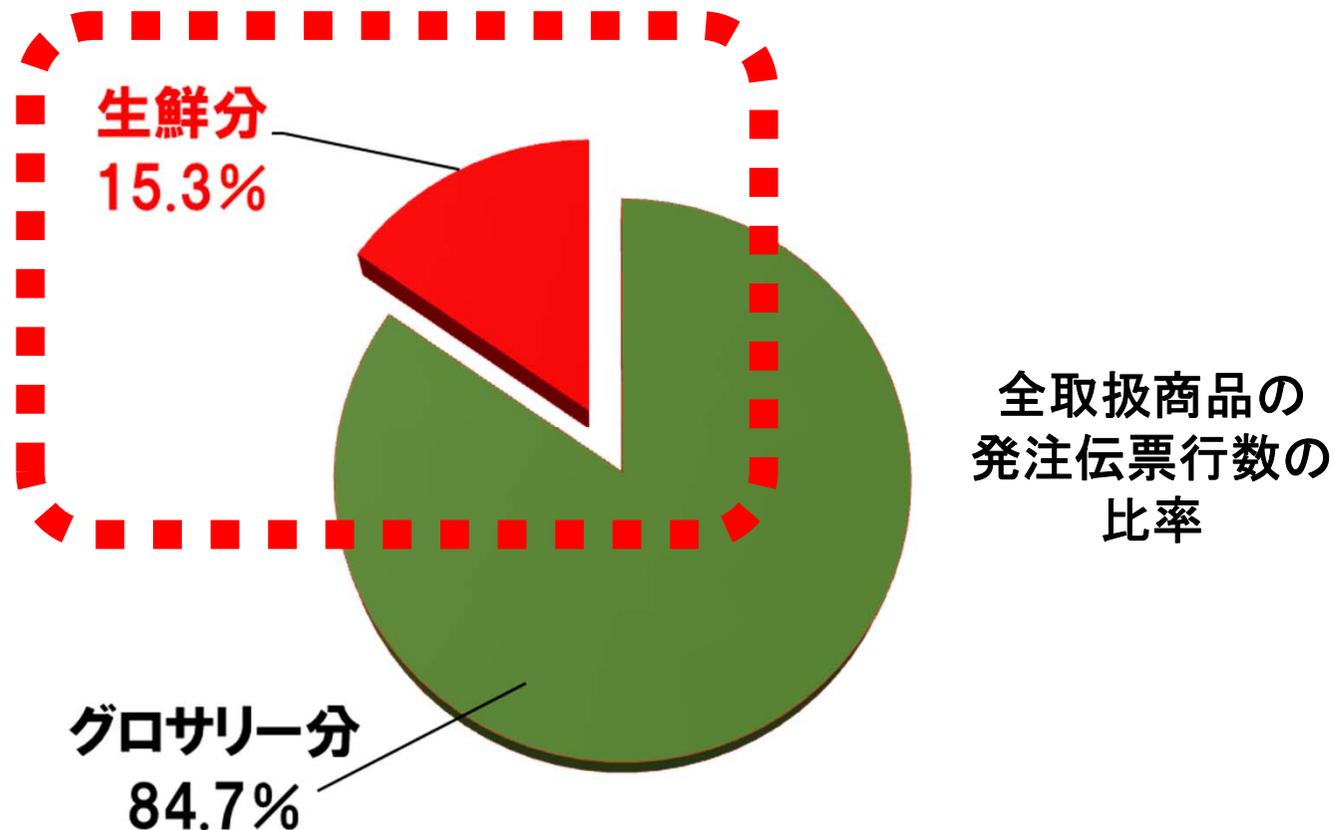
EDI化  
93.3%

13万行の伝票が9割減

## 4. 小売導入事例 ②B社(サービス利用型) VII. 今後の取り組み

### 流通BMS稼働後の取り組みについて

ファーストステップとして、グロサリー分の対応は完了したが、  
**生鮮分の15.3%がまだ未対応。**  
 今後、同様に伝票削減とデータ活用に取り組む。



※生鮮分野における流通BMS導入については農林水産省補助事業（平成25年、26年）にて手引きが作成されており、今後普及拡大が期待されている分野です。「生鮮 流通BMS導入 手引き」で検索してPDF資料をご覧ください。

## 5. 情報提供 ①情報取得方法 I. セミナー、II. 講座、III. メールニュース

### I. セミナー

協議会WEBサイトで告知、年数回開催。

※流通BMS協議会(<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>)

⇒セミナー・イベント をご参照ください。

### II. 講座

#### ①流通BMS入門講座(リアル)

流通やEDIの基礎知識から流通BMSの利用方法まで幅広く学ぶことができます。初めてEDIに関わる方、流通BMSに関心がある方にお奨めです。



#### ②流通BMS e講座(e-learning)

主に小売及び小売のシステム構築を支援するシステム会社向けに、標準仕様を遵守しながら流通BMSを効果的に導入する要点を解説します。e-learning形式で配信をしております。

### III. メールニュース

「流通BMSメールニュース」

流通BMSの最新ニュース、協議会の活動、セミナー情報などをご案内

[ryutsu-bms@dsri.jp](mailto:ryutsu-bms@dsri.jp)宛にメールニュースを希望とお書きの上お申し込みください。

# 5. 情報提供 ①情報取得方法 IV. ドキュメント

## IV. ドキュメント

流通BMS協議会提供のガイドラインやツール類(無料)

	標準化されている対象	対象となるガイドライン	ツール類
EDIメッセージ	業務プロセス (基本形、百貨店版)	システム設計ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通確認シート</li> <li>・メッセージ情報協定シート</li> </ul>
	標準メッセージの種類 <small>基本形:26 百貨店版:27</small>	導入ガイドライン	
	メッセージ毎のデータ項目	運用ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッピングシート</li> <li>・メッセージ別項目一覧</li> <li>・コードリスト一覧</li> </ul>
	コード (GTIN、GLN)		
	データ表現形式 (XML)		
通信インフラ	通信手順 (ebMS、AS2、JX)	通信プロトコル 利用ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信パラメータ協定シート</li> <li>・CPA雛形</li> </ul>
	通信基盤 (インターネット TCP/IP)		

※流通BMS協議会ホームページ(<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>)  
⇒流通BMS標準仕様 をご参照ください。

# 5. 情報提供 ①情報取得方法 IV. ドキュメント

## IV. ドキュメント 各種ガイドライン(無料)

※流通BMS協議会ホームページ(<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>)  
⇒流通BMS標準仕様 をご参照ください。

ガイド		使用目的
導入	導入ガイドライン(概要編)	流通BMSの導入を検討するにあたり、流通BMSの概要や 導入効果、及び流通業界における流通BMSの動向などを 理解することを目的に作成されたもの
	導入ガイドライン(業界編)	流通BMSの導入を検討する際、または導入が決定した際に、流通BMSの導入に必要なコストを見積るための要素や 導入手順の概略を理解することを目的に作成したもの
	導入ガイドライン(システム編)	流通BMSを実装する際に、実装の手順の概要と留意点を 理解することを目的に作成されたもの
運用	運用ガイドライン(基本編)	流通BMSの基本形で定義されている各メッセージおよびデータ項目の内容を深く理解し、現行システムからの移行や新規システム開発を 行う際の解説資料
	運用ガイドライン(預り在庫センター編)	
	運用ガイドライン(生鮮業界編)	
	運用ガイドライン(その他メッセージ編)	
	運用ガイドライン(商品マスタ編)	流通BMSの商品マスタで定義されている各メッセージおよびデータ項目の内容を深く理解し、現行システムからの移行や新規システム開発を 行う際の解説資料
	物流ラベル運用ガイドライン第Ⅰ章 《概要編》	流通BMS対応物流ラベルおよび付帯帳票の導入を検討するにあたり、流通BMS対応物流ラベルおよび付帯帳票の概要や、対象となる業務モデルなどを理解することを目的に作成されたもの
	物流ラベル運用ガイドライン第Ⅱ章 《仕様編》	流通BMS対応物流ラベルおよび付帯帳票の仕様の仕様と留意点を理解することを目的に作成されたもの
	物流ラベル運用ガイドライン第Ⅲ章 《導入編》	流通BMS対応物流ラベルおよび付帯帳票を実装する際の手順および「物流用共通確認シート」の使い方を理解することを目的に作成されたもの
百貨店版メッセージ利用ガイドライン	百貨店及び卸・メーカー企業の情報システム部門担当者や実際にEDIメッセージをセットする担当者が、流通BMSを利用する際に、「業務プロセス」、「メッセージ」、「項目」の意味および利用方法について理解を深めることを目的に作成	
技術	システム設計ガイドライン	流通BMSのシステム設計や運用に必要な、「基本技術」、「構築」、「運用」について説明
	通信プロトコル利用ガイドライン	流通BMSをインターネットを使用して送受信する際に必要となる、通信プロトコル、セキュリティに関する標準仕様、パラメータ設定の推奨値を説明
	XMLテクニカルガイド	XMLスキーマを直接扱うアプリケーションの設計及び開発を行うための、メッセージ構造などを詳細に説明
	XMLスキーマ開発ガイド	流通BMSの既存メッセージの修正や新規メッセージのスキーマ開発に関して、標準的な開発手順や遵守すべきルールを纏めたもの。標準的な技術知識を有する作業者が、流通BMSのXMLスキーマ開発保守作業を一定の水準で、効率よく実施できるようにすることを目的に作成したもの

## 5. 情報提供 ①情報取得方法 V. ロゴマーク使用許諾製品

### V. ロゴマーク使用許諾製品

#### 流通BMSのロゴマーク使用を許諾した製品・サービスの検索システム

※流通BMS協議会(<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>)

⇒情報コーナー

⇒ロゴマーク使用許諾製品 をご参照ください。

(製品数は2017.11.1現在)

- EDI(通信+XML)製品:47
- サービス(ASP/SaaS):44
- 通信基盤:12
- 認証サービス:3
- 物流ラベル作成ソフト:4

流通BMS ロゴマーク使用許諾製品  
検索システム

導入対象	EDI(通信+XML)
------	-------------

詳細条件を指定してください。

導入形態	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 自社導入 <input type="checkbox"/> ASP/SaaS
通信手順	<input type="checkbox"/> ebMS <input type="checkbox"/> AS2 <input type="checkbox"/> JX手順(サーバ) <input type="checkbox"/> JX手順(クライアント)
流通BMS バージョン	<input type="checkbox"/> 基本形Ver1.0 <input type="checkbox"/> 基本形Ver1.1 <input type="checkbox"/> 基本形Ver1.2 <input type="checkbox"/> 基本形Ver1.3 <input type="checkbox"/> 生鮮版(暫定)Ver1.0 <input type="checkbox"/> 生鮮版(暫定)Ver1.2 <input type="checkbox"/> 商品マスタVer1.0 <input type="checkbox"/> 百貨店版Ver1.0 <input type="checkbox"/> 百貨店版Ver2.0 <input type="checkbox"/> 百貨店版Ver2.1



<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>

「流通ビジネスメッセージ標準」および「流通BMS」は  
一般財団法人流通システム開発センターの登録商標です。